

株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問い合わせ先)	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 UFJ信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部
電話	06-6229-3011 (代表)
同取次所	UFJ信託銀行株式会社本店および全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞

株式会社フェイス

〒604-8171
京都市中京区烏丸御池下ル虎屋町566-1
井門明治生命ビル3階
お問い合わせ先
TEL :(075) 213-3933 FAX :(075) 213-3833
E-mail ir@faith.co.jp
URL www.faitn.co.jp/

株式会社フェイス
第11期中間事業報告書

Faith, Inc. Semiannual Report
(2002.4.1 ~ 2002.9.30)



株式会社フェイス

株主の皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当社は、昨年のJASDAQ市場への上場に続きまして、2002年9月10日に東京証券取引所市場第一部に上場し、2002年10月9日をもちまして、創立10周年を迎えることができました。これもひとえに株主の皆様方をはじめ、関係各位のご支援、ご鞭撻の賜物と厚くお礼申し上げます。

当上半期におきましては、携帯電話市場の成熟化が懸念される中、音声通話市場は厳しい状況が続いておりますが、モバイルコンテンツ市場は引き続き年率2桁以上のペースで成長を続けております。このような市場背景により、昨今、携帯電話端末の高性能化・多機能化を進めている通信事業者は、データ通信（コンテンツサービスなど）を将来収益の柱とする戦略を、これまで以上に打ち出しております。

当社は、このような変化をビジネスチャンスと捉え、将来を開拓するための様々な展開を国内外に推進してまいりました。

国内におきましては、事業パートナーであるコンテンツプロバイダに対して、様々なビジネスソリューションを提供し、収益の最大化に努めるとともに、新たなサービスを開発してまいりました。

海外におきましては、特に、欧州・北米・アジアの3地域に注力し、M&A、現地法人の設立、合併会社設立など、企業グループの体制も強化いたしました。

今後も、企業価値の最大化を目指して、業績向上に努めてまいります。

株主の皆様方におかれましては、変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2002年12月

代表取締役社長 平澤 創

NTTデータと合併会社を設立

4月24日、中国でコンテンツ配信事業を推進するための企画会社、株式会社網楽を設立しました。今後、同社を通じて、通信インフラ、システムソリューションに強い株式会社NTTデータとコンテンツビジネスの技術ノウハウに強い当社が協力して市場を開拓していきます。

仏デジプラグ社買収で欧州進出

8月9日、フランスを拠点に欧州地域で携帯電話向けコンテンツ配信プラットフォームの開発・提供およびコンテンツサービスの提供を行う有力企業、仏Digiplug社を買収しました。今後、同社との連携により、欧州市場開拓を推進します。



www.digiplug.com

NOKIAとコンテンツ開発者支援で提携

9月24日、携帯電話メーカーとして世界トップのNOKIA（フィンランド）グループの株式会社ノキア・ジャパンと次世代端末向けコンテンツの開発ソフトウェアを開発提供することで合意しました。

www.nokia.co.jp/forum/index.html

米Verizon Wireless社と提携

6月に、加入者3,000万人を超える北米最大規模の通信事業者Verizon Wireless社のサービスで初の16和音着信メロディサービスmodtonesを開始。

これにより、5月17日に、北米市場を開拓するために設立した100%出資子会社Faith West Inc.の事業展開を加速します。

www.modtones.com



東証一部上場

9月10日、おかげさまで、当社株式が東京証券取引所市場第一部銘柄に指定されました。



営業の概況 Review on Operation

事業環境

携帯電話は、2002年9月現在の日本の人口1億2,738万人に対して、7,208万人（前年同月比10%増）にまで普及し、iモード等のインターネットサービスの契約者数は、5,711万人（同27%増）にまで成長しました。

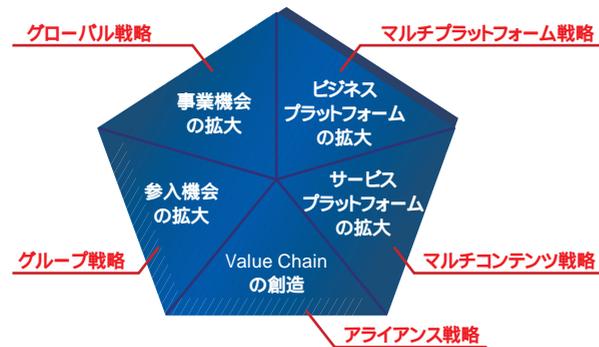
携帯電話の新規加入者の増加ペースは、前年同期と比較すると若干スローダウンしたものの、モバイルインターネット接続サービスを利用するコンテンツサービス市場は順調に拡大しました。次世代携帯電話だけではなく、従来の携帯電話端末におきましてもJAVA、モバイルカメラ、高速パケット通信など高性能化・多機能化が進み、通信事業者がデータ通信（コンテンツサービスなど）を将来の収益の柱として、戦略的に位置づける動きが顕著となりました。

事業環境



出典：(社)電気通信事業者協会 発表資料

5つの戦略



このような市場変化に対応するため、当社はマルチプラットフォーム戦略、マルチコンテンツ戦略、アライアンス戦略、グループ戦略、グローバル戦略の5つの戦略を機軸に、自社ソリューションを提供することにより、将来を見据えた事業拡大に様々な布石を打ちました。

事業戦略 Business Strategy

マルチプラットフォーム戦略

5月に携帯電話向けでは世界トップシェアの米Texas Instruments社製DSP（デジタルシグナルプロセッサ）に対応したマルチフォーマットプレーヤーとソフトウェア音源を開発しました。また、カーモバイル分野への当社技術の提供、雑誌とネットワーク端末の連動など、新しいプラットフォームへの展開を行いました。既に当社が音源技術等を提供しているソニー・プレイステーション2は世界出荷累計4,000万台を突破し、ネットワーク化に向けた事業可能性が拡大しました。



マルチコンテンツ戦略

有力なコンテンツプロバイダとの協業によって、最新技術の和音着信メロディ、携帯カラオケ、コミュニケーションコンテンツ、イーコマースなどの様々なサービス開発を行いました。



当社の事業

ライセンス事業

ハードウェア（情報伝達手段）でコンテンツを入手する「仕組み」を、半導体メーカーや端末メーカーに開発提供する事業。
例）フォーマットや音源技術など



サービス事業

音楽・映画・ファッション・スポーツなどを楽しむためのコンテンツサービスを実現するために、ビジネスソリューション（企画・技術・ノウハウなど）をコンテンツプロバイダに提供する事業。



ライセンス事業とサービス事業を組み合わせることによって・・・

アライアンス戦略

9月に携帯電話メーカーとして世界トップのNOKIAグループの株式会社ノキア・ジャパンと次世代コンテンツ開発者支援で提携し、世界標準規格の和音着信メロディに対応したオーサリングツール（開発ソフトウェア）を開発しました。その他、6月には米Verizon Wireless社との提携、さらに8月には、仏Digiplug社を買収し、仏Vivendi Universal社・欧州最大の携帯電話キャリアOrangeグループなど多くの提携先を開拓しました。韓国におきましては、The Music Asia社と韓国における著作権管理事業について提携しました。

グループ戦略

4月に中国市場をターゲットとして株式会社NTTデータとの合弁会社、株式会社網楽（当社49%出資）を設立しました。5月には北米市場をターゲットとしてFaith West Inc.（当社100%出資）を設立しました。さらに8月には今後の欧州市場をターゲットとして仏Digiplug社（当社100%出資）を買収し、欧州を中心としたGSM圏の市場開拓の橋頭堡を築きました。

グローバル戦略

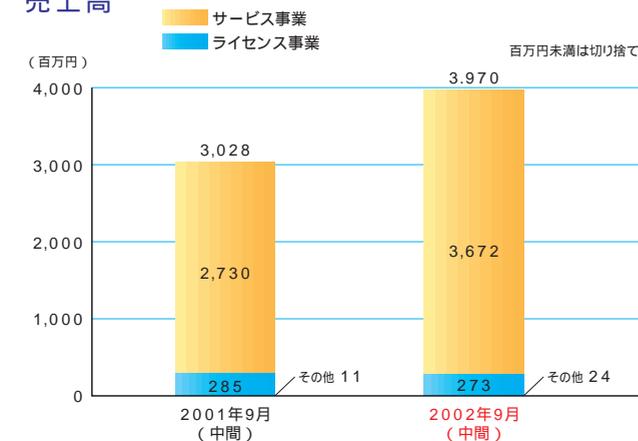
株式会社NTTドコモのi-mode、米Qualcomm社のCDMA、そして欧州規格のGSM・GPRSという3つの切り口により世界同時進行で展開し、コンテンツ配信ビジネスを実現するため、あらゆる通信方式・規格に対応する技術力と体制を整えました。欧州では4月にオランダのKPN mobile社やドイツのE-Plus社のi-modeでコンテンツプロバイダとの協業によってサービスを開始し、北米では6月にVerizon Wireless社、Qualcomm社との提携によって、初の16和音着信メロディサービス“modtones”を開始しました。中国では、4月に設立したNTTデータとの合弁会社、株式会

社網楽を通じて、コンテンツ配信ビジネスプラットフォームの企画提案を推進し、台湾では、8月にKGTelecom社のi-modeでサービスを開始しました。

以上の戦略的な展開を推進した結果、当中間会計期間の売上高は3,970百万円（前年同期比31.1%増）、経常利益は2,417百万円（同11.9%増）、中間純利益は1,202百万円（同9.4%増）となり増収増益を確保しました。

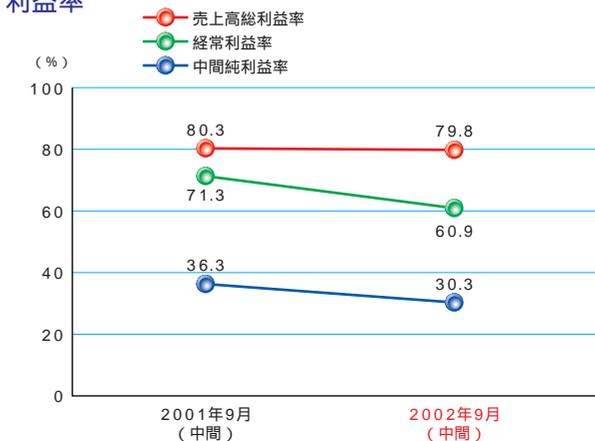


売上高

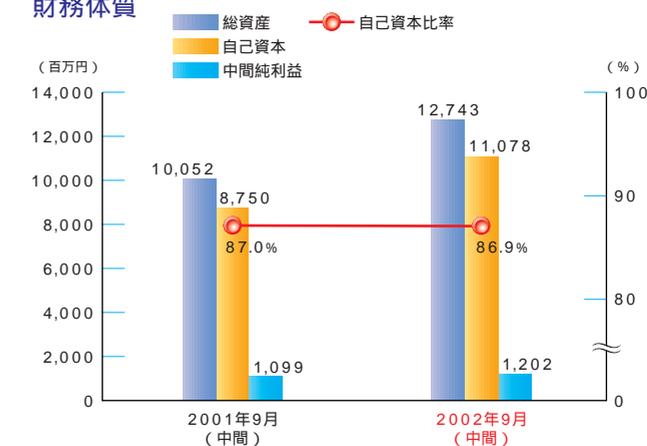


売上高	2001年9月 (中間)	2002年9月 (中間)
サービス事業	90.2%	92.5%
ライセンス事業	9.4%	6.9%
その他	0.4%	0.6%

利益率



財務体質



事業部門別の概況

サービス事業におきましては、売上の中心である国内コンテンツプロバイダ間の競争激化に対応するため、当社技術力を活かした魅力的なコンテンツや新端末に対応したコンテンツ開発、サービスプラットフォームのリニューアル、配信ソリューションの提供、販売促進活動などを企画提案し、事業パートナーであるコンテンツプロバイダのユーザー獲得をサポートし、ブランド力強化を図りました。その結果、サービス事業売上高は計画を上回るペースで順調に推移しました。

海外におきましては、欧州・米国・アジアでの携帯電話コンテンツサービスが概ね予定通り開始しました。この結果、当中間会計期間のサービス事業の売上高は3,672百万円、前年同期と比較して941百万円の増収（前年同期比34.5%増）となりました。

ライセンス事業におきましては、当社音源技術を半導体メーカー等にライセンスしましたが、国内における携帯端末用の半導体の在庫調整や、新機種の出荷が遅れたこと等により、売上高は273百万円と、前年同期と比較して12百万円の減収（前年同期比4.3%減）となりました。

その他の事業におきましては、コンテンツデータ制作機器をコンテンツプロバイダ等に販売し、売上高は24百万円と前年同期と比較して12百万円の増収（前年同期比106.3%増）となりました。

通期の見通し

国内におきましては、今後、携帯電話加入者の増加は急成長から安定成長期に入り、コンテンツサービス市場におきましても、コンテンツプロバイダ間の競争が予想されます。

当社としましては、事業パートナーの競争優位を維持・強化する方向で様々な対策を打つ方針であります。特に、モバイルカメラや高速パケット通信などの機能向上によって、サービスの多様化と新たなユーザー層の拡大とが進むと考えており、当社技術力を活かした新たなソリューションを開発してまいります。

コンテンツ配信などのサービス事業におきまして、市場環境やニーズの変化を捉えた様々な新サービスの開発提供を予定しており、高い支持を得ている従来サービスの成長と合わせて、業績は引き続き堅調に推移するものと考えています。

音源技術などのライセンス事業は、新機種の投入による販売動向が予測しがたい状況が続きますが、北米・欧州・アジア仕向けの半導体が需要拡大期に入ることもあり、全体としては堅調に推移するものと予想しています。

通期業績の見通しにつきましては、売上高8,002百万円、経常利益5,202百万円、当期純利益2,604百万円を予想しています。なお、期末の配当金につきましては安定配当に心がけ、1株当たり500円（年間1,000円）とさせて頂く予定であります。

10年の軌跡 Milestones in the decade

原点・・・

メディアのデジタル化、PCのネットワーク化が始まって間もない頃・・・。
1992年10月9日、創業者の平澤創（現社長）と中西正人（現専務）は、京都市中京区に株式会社フェイスを設立。

Faith,inc.

会社ロゴ 1992年10月9日～

マルチメディアソフトウェアの時代・・・

文字、画像、音などのコンテンツをフロッピーディスクやCD-ROMに記録し、PCで再生する『ソフト』が目されたマルチメディアの時代。



通信ネットワークの幕開け・・・

世界にインターネットが普及する前、日本ではパソコン通信が主流。

1994年、フェイスはニフティ株式会社と日本で最初のデジタルコンテンツのネットワーク配信事業を開始。1995年には、イギリス最大手の音楽出版社Music Sales Limited社と提携し、音楽CD-ROMの輸入販売を開始。1997年には、カシオ計算機株式会社と共同で家庭用通信カラオケサービスを開始。

www.nifty.ne.jp/lana/



そして、インターネット・・・

インターネットの本格的な普及が始まると、ユーザーは利用目的としてコンテンツを求め始めた。1997年、フェイスはソフトウェア音源技術でソニーグループのSo-netで、世界初のボイス付きインターネットカラオケを実現。

www.so-net.ne.jp/karaoke/





会社ロゴ 2000年8月28日～

モバイルへの展開・・・

携帯電話から大きく花開いたワイヤレスネットワークの時代。1999年、爆発的に普及した携帯電話でi-modeが始まった。メールやウェブを利用していくうちに、人々は新たなコンテンツを求め始めた。

1999年12月、フェイスは独自の技術によって、世界で初の和音着信メロディのダウンロードサービスを実現。



IT時代・・・

『IT革命』と騒がれ始めたころ、既にフェイスは日本から世界に技術を発信していた。和音着信メロディを実現する技術CMX (Compact Media Extension) を米Qualcomm社と共同で開発。2000年、その技術が利用され、株式会社DDI (現株式会社KDDI) で和音着信メロディサービスが始まった。

現在も、演奏情報・音声・テキスト・画像を同時再生する技術としてCMXは進化を続けている。



Faith goes global!

そして、2002年、着信メロディなどのコンテンツはアメリカ、ヨーロッパ、アジアなど全世界に拡大を始めた。世界の人々を「いい顔」にするために。



会社ロゴ 2002年9月10日～

フェイスグループ、日本発世界へ・・・

世界のあらゆる地域で、すべての通信方式に対応する技術力と体制を整え、新たなサービスを創造していく。

フェイスのビジネスはさらに進化する。

人々に「新たな感動」を届けるために...



Faith West Inc.
Executive Vice President
Carolynne Schloeder

北米

2002年5月に設立したFaith West Inc.は、既に、6月に大手携帯電話事業者のVerizon Wirelessで、16和音着信メロディサービス"modtones"をサービスインしました。きっと、音楽好きのアメリカ人のハートをつかむことができると信じています。

このサービスに利用されているCMXはあらゆるコンテンツを生み出すプラットフォーム技術として、無限の可能性があります。



Faith, Inc.
C.O.O.
Masato Nakanishi

アジア

中国、台湾、韓国そして東南アジアで事業を展開します。携帯電話加入者が約2億人といわれる中国においては、株式会社網楽(株式会社NTTデータとの合併会社)によってコンテンツビジネスのインフラからサービスまでの企画提案を推進しています。台湾においても8月よりKGTelecom社がi-modeサービスを開始。フェイスはキャリア、端末メーカー、コンテンツプロバイダに対してソリューションを提供しています。高機能端末の増加が予想されるアジア市場で、和音着信メロディを中心に多様なコンテンツビジネスを拡大していきます。



Digiplug S.A.
C.E.O.
Stéphane Bohbot

ヨーロッパ

今、欧州の通信事業者はコンテンツビジネスに注目し始めています。仏デジプラグ社は、フェイスグループの一員として、欧州を拠点に世界最大のGSM・GPRS市場を開拓していきます。

我々が築いてきた事業パートナーとの密接な関係と、フェイスのビジネスソリューションの相乗効果によって、新たなモバイルコンテンツのマーケットを生み出していきます。

要約財務諸表 Financial Statements

貸借対照表

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	(2002年9月30日現在)	(2001年9月30日現在)	(2002年3月31日現在)
資産の部	12,742	10,052	12,661
流動資産	7,629	9,640	11,398
現金及び預金	3,793	4,615	4,662
受取手形	6	6	5
売掛金	751	602	792
有価証券	2,554	4,150	5,204
商品	15	4	34
その他の流動資産	512	263	703
貸倒引当金	3	2	3
固定資産	5,113	412	1,262
(有形固定資産)	379	264	262
建物・構築物	24	18	18
車両運搬具	18	4	22
工具器具備品	335	240	221
(無形固定資産)	118	10	74
営業権	7	-	8
ソフトウェア	77	8	65
その他無形固定資産	34	1	1
(投資その他の資産)	4,615	139	925
投資有価証券	641	38	680
関係会社株式	2,960	15	118
繰延税金資産	39	14	34
敷金	683	69	90
その他の資産	398	1	2
貸倒引当金	108	-	-
資産合計	12,742	10,052	12,661

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	(2002年9月30日現在)	(2001年9月30日現在)	(2002年3月31日現在)
負債の部	1,664	1,302	2,617
流動負債	1,592	1,257	2,560
買掛金	100	69	133
未払金	267	119	351
未払法人税等	1,080	1,026	1,970
賞与引当金	65	32	47
その他流動負債	77	8	58
固定負債	71	45	57
退職給付引当金	8	3	5
役員退職慰労引当金	63	42	52
資本の部	11,078	8,750	10,043
資本金	-	3,218	3,218
資本準備金	-	3,708	3,708
利益準備金	-	1	1
その他の剰余金	-	1,822	3,115
その他有価証券評価差額金	-	-	0
資本金	3,218	-	-
資本剰余金	3,708	-	-
利益剰余金	4,159	-	-
その他有価証券評価差額金	7	-	-
負債及び資本合計	12,742	10,052	12,661

損益計算書

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	自 2002年4月 1日 至 2002年9月30日	自 2001年4月 1日 至 2001年9月30日	自 2001年4月 1日 至 2002年3月31日
売上高	3,970	3,028	6,666
売上原価	802	597	1,445
売上総利益	3,167	2,430	5,221
販売費及び一般管理費	476	209	548
営業利益	2,690	2,220	4,672
営業外収益	24	3	56
受取利息・有価証券利息	25	1	16
為替差益	-	-	37
雑収入	0	1	2
営業外費用	298	64	60
支払利息	1	-	-
有価証券売却損	-	-	7
為替差損	143	14	-
買収関連費用	117	-	-
その他	34	49	53
経常利益	2,417	2,159	4,669
特別利益	0	-	-
貸倒引当金戻入	0	-	-
特別損失	121	-	25
固定資産除却損	-	-	2
投資有価証券評価損	13	-	23
貸倒引当金繰入	108	-	-
税引前中間(当期)純利益	2,295	2,159	4,643
法人税、住民税及び事業税	1,093	1,060	2,498
法人税等調整額	-	-	247
中間(当期)純利益	1,202	1,099	2,392
前期繰越利益	455	223	223
中間(当期)未処分利益	1,658	1,322	2,615

(単位：百万円)

キャッシュ・フロー計算書

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	自 2002年4月 1日 至 2002年9月30日	自 2001年4月 1日 至 2001年9月30日	自 2001年4月 1日 至 2002年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	588	1,069	3,199
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,439	1,265	2,742
財務活動によるキャッシュ・フロー	118	6,345	6,338
現金及び現金同等物に係る換算差額	103	12	37
現金及び現金同等物の増減額	3,073	6,136	6,833
現金及び現金同等物の期首残高	8,320	1,487	1,487
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,247	7,624	8,320

(単位：百万円)

会社概要・株式情報 Investor Information

(2002年9月30日現在)

商号 株式会社フェイス
 本社所在地 京都市中京区烏丸御池下ル虎屋町566-1
 井門明治生命ビル3階
 資本金 32億1,800万円
 設立年月日 1992年10月9日
 従業員数 57名

株式の状況
 会社が発行する株式の総数 199,000株
 発行済株式総数 119,600株
 株主数 6,622名

取締役および監査役(2002年9月30日現在)

役名	氏名
代表取締役社長	平澤 創
専務取締役	中西 正人
取締役	馬島 良行
取締役	佐伯 浩二
常勤監査役	廣瀬 嘉行
常勤監査役	清水 章
監査役	前川 純一
監査役	山田 隆夫

大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	持株数比率
平澤 創	56,800株	47.5%
中西正人	11,300	9.4
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	2,744	2.3
UFJ信託銀行株式会社	2,385	2.0
野村證券株式会社	1,842	1.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	1,281	1.1
大阪中小企業投資育成株式会社	1,250	1.0
あさひ銀事業投資株式会社	1,200	1.0
馬島良行	1,140	1.0
クアルコムインク	970	0.8

- ・2002年9月10日の東証一部への上場に伴う株式の売り出し等によって株主数が大幅に拡大しました。(3,303名 6,622名)
- ・所有者別株式分布におきましては、金融機関の比率が高くなりました(4.4% 9.0%)
- ・所有株数別株式分布におきましては、1株以上10株未満の株主の割合が高くなりました(6.6% 10.9%)

